

# 第8回九州森林フォーラム in 球磨

川、そして海につながる森林づくり  
～人工林施業を考える～

2007年10月12日(金)～13日(土)  
熊本県球磨郡球磨村一勝地温泉



日時：2007年10月12日(金)～13日(土)  
12日13時～：山の見学会 18時～：懇親会  
13日9時半から：第8回九州フォーラム

場所：集合 12日13時 球泉洞前駐車場  
懇親会 球磨村石の交流館「やまなみ」  
宿泊 一勝地温泉「かわせみ」  
フォーラム 13日9時半～16時

基調講演：藤森隆郎氏「流域環境に配慮した森林の管理と経営」  
体験発表：球磨村森林組合、やまंतरわかわたの会、八代木夢ネット

その後、ワークショップ形式で討論

参加費：資料代(1,000円)

【主催】NPO法人九州森林ネットワーク

【共催】球磨村森林組合、球磨川水系ネットワーク、八代木夢ネット(依頼予定を含む)

【後援】熊本県、球磨村、他球磨川流域市町村、球磨川水系関係団体(依頼予定を含む)

〈問い合わせ先〉NPO法人九州森林ネットワーク事務局 熊本県阿蘇郡小国町宮原 小国町森林組合事務所内

Tel 0967-46-2411 E-mail info@ogunisugi.com URL <http://www.geocities.jp/shinrin9net/>

## 基調講演者プロフィール

藤森隆郎(ふじもり・たかお)

所属：日本森林技術協会技術指導員  
1938年京都市生まれ。1963年京都大学農学群  
林学科卒業。農林省林業試験場(現在の独立  
行政法人森林総合研究所)入省後、森林の生態  
と造林に関する研究に従事。1999年、森林環境  
部長を最後に森林総合研究所を退職。  
現在までに、国策の持続可能な森林管理の基準・  
指標作成委員会の日本代表、機構変動に関する  
政府間パネル(IPCC)第3次報告書執筆委員  
などを歴任。農学博士。  
『新たな森林管理—持続可能な社会に向けて—』  
(全国林業改良普及協会)、『森との共生』  
(丸善ライブラリー322)など著書多数。

## 第8回フォーラム in 球磨

「川、そして海につながる森林づくり ～人工林施業を考える～」

### 趣意書

森は川や海と繋がっています。昔からそのことは人々の生活知であり、江戸時代、漁業が盛んだった藩では「魚つき林」として森を守っていました。最近では、全国各地で「森は海の恋人」を合い言葉に、漁業者による植樹活動が活発になっています。

では、川や海のために森林や林業生産はどうあるべきなのでしょう？第8回目となる九州森林フォーラムでは流域の環境保全を考慮した森林づくりについて、共に学び、大いに議論したいと考えています。

九州は森林面積の約6割が木材生産を目的としたスギ、ヒノキの人工林です。その多くが伐採可能な時期になってきています。現在、中国やインドなどの経済成長に伴って世界的に木材需要が拡大しており、日本はこれまでのように外国からふんだんに木材を輸入できる状況ではなくなりつつあります。国産材の安定供給が加工側から要求され、それに川上が対応できさえすれば、林業のV字型復活と公益的機能の向上が実現できるといった「予定調和」に期待する声があります。しかし、一方で経済性のみを追求した無秩序な伐採の広がりや危惧されています。台風時には九州各地の河川で流木被害が起こっています。

人工林をどのように伐採し、その後の更新をいかに行うのか、あるいは人工林と天然林の配置によっても流域環境は大きく左右されます。環境保全のために広葉樹を植えれば解決するという単純なものでもありません。地域の経済、環境、社会の持続に繋がるような森林の管理と林業経営を追求することが求められます。そのためにどのような住民参加がありうるのでしょうか？

球磨村は近年、大面積に皆伐が進み、その無秩序な伐採と再造林放棄が社会問題化し、メディアでも大きく報道されています。しかし、それらは主に不在村所有者の山で発生しており、地元の球磨村森林組合は間伐施業を中心に山を守る努力を続けてきました。その路網整備や間伐の技術は高く評価されています。

フォーラムでは、人工林の様々な施業現場を見学し、当日は「球磨川、大好き！」と球磨川の環境保全活動に取り組まれている方々も交えてワークショップ形式で議論を行います。基調講演では、長年、森林の生態と造林の研究に従事され、国連の持続可能な森林管理の基準・指標作成委員会日本代表をされた藤森隆郎氏に、流域環境に配慮した森林の管理と経営についてご講演頂けることになりました。

多くの皆様の参加をお待ちしています。

NPO法人九州森林ネットワーク 理事長 佐藤宣子